# 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目名(英) | 文章表現基礎講座 | | | 授業コード | A030877 |
| 担当教員名 | 太田　清子 | | | 科目ナンバリングコード | A10303 |
| 配当学年 | 1 | 開講期 | 後期 | | |
| 必修・選択区分 | 必修 | 単位数 | 2 | | |
| 履修上の注意または履修条件 | 「基礎学力講座(国語)」を履修していることが望ましい。(教科書は同じ) | | | | |
| 受講心得 | 教科書は必ず持参してください。ノートを用意し、国語辞典(電子辞書も可)を常に携帯するのがよろしい。予習や復習のために図書館や人間力育成センターの図書を積極的に利用しましょう。欠席や遅刻のないように、また、授業時間以外にも新聞・雑誌・本をよく読むように心がけること | | | | |
| 教科書 | 戎妙子・柴田あぐに・関綾子・中谷潤子・松田浩志・山田勇人著『大学生、社会人の日本語応用力を伸ばす　使う言葉』(研究社) | | | | |
| 参考文献及び指定図書 | 『三省堂国語辞典　第六版』(比較的小型)、江守賢治『漢字筆順ハンドブック　第二版』(三省堂)、小学館辞書編集部(編)『日本語便利辞典』(小学館)、金田一春彦(監修)『手紙の書き方辞典』(学習研究社)、『国語力アップ400問』(NHK出版[生活人新書067])、『国語力もっとアップ400問』(NHK出版[生活人新書105])、水谷信子『心を伝える日本語講座』(研究社出版)、加納善光『漢字の常識・非常識』(講談社現代新書954)、池上彰『日本語の「大疑問」』(講談社＋α新書6－1　C)、秋月高太郎『ありえない日本語』(ちくま新書524)、金武伸弥『王道日本語ドリル』(集英社新書0428E)、佐竹秀雄『日本語教室Q&A』(角川ソフィア文庫)、鈴木輝一郎『日本語の逆襲』(小学館)、清水義範『日本語がもっと面白くなるパズルの本』(光文社文庫)、樋口裕一『本当に使える！日本語練習ノート』(PHP新書622)、朝日新聞出版(編)『日本語きほん帳』(朝日文庫)。 | | | | |
| 関連科目 | 社会参画入門、社会参画実習1、基礎学力講座(国語)、英語1・2、情報リテラシー1・2 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 基礎的な国語力はあらゆる学習分野で求められる重要な要素です。大学初年度における国語教育は4年間の勉学生活の土台を提供するとともに、卒業後の社会人がもつべき一般常識を養う側面をも有します。1年次前期の「基礎学力講座(国語)」では文字表現や文章作成を学びましたが、後期のこの科目ではそれに引き続き、文章実践や口語表現を学んでさらに日本語力に磨きをかけ、それによって特に日常生活におけるコミュニケーション能力の養成を図ります。 |
| 授業の概要 | 第1回の前半はこの科目のオリエンテーション。半年間の授業で教科書の後半を取り扱います。第1回の後半から第15回まで教科書の第1課から第30課までを学んで行きます。四字熟語・慣用句、決まり文句を中心に日常のコミュニケーションに活かせる言語表現を徹底して練習します。第2回以降は、毎回、小テストがあります。<br>第16回に第1回から第15回までの授業内容についての期末試験を行います。 |

| ○授業計画 | |
|---|---|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| 第 1 週 ：<br>半年間の学習に関するオリエンテーション。授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方、授業中の発表の取り扱い、質問の受け付け、成績評価の方法等について説明します。半年間の学習に関するオリエンテーション。授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方、授業中の発表の取り扱い、質問の受け付け方法、成績評価の方法等について説明します。 教科書の第1課と第2課 | 第1回～第15回　授業に出る前に教科書の該当箇所をよく読み、練習問題を解いてみること。必要に応じ辞書(国語辞典等)を引くこと。 |
| 第 2 週 ：<br>教科書の第3課と第4課 | |
| 第 3 週 ：<br>教科書の第5課と第6課 | |
| 第 4 週 ： | |

| | |
|---|---|
| 教科書の第7課と第8課 | |
| **第 5 週 :**<br>教科書の第9課と第10課 | |
| **第 6 週 :**<br>教科書の第11課と第12課 | |
| **第 7 週 :**<br>教科書の第13課と第14課 | |
| **第 8 週 :**<br>教科書の第15課と第16課 | |
| **第 9 週 :**<br>教科書の第17課と第18課 | |
| **第10週 :**<br>教科書の第19課と第20課 | |
| **第11週 :**<br>教科書の第21課と第22課 | |
| **第12週 :**<br>教科書の第23課と第24課 | |
| **第13週 :**<br>教科書の第25課と第26課 | |
| **第14週 :**<br>教科書の第27課と第28課 | |
| **第15週 :**<br>教科書の第29課と第30課 | 第15回　授業終了後、第16回の期末試験に備えて半年間で学んだ授業内容を再度振り返り、必要なまとめや補充を行い、疑問点等については自分で辞書や参考書を使って調べておくこと。教員への質問も積極的に視野に入れること。 |
| **第16週 : 期末試験**<br>第1回から第15回までの授業内容についての試験を行います。 | 第16回　試験終了後、試験内容を再度検討し、答えられなかった箇所については担当教員への質問等によって正解が得られるよう努力する。 |

| | | |
|---|---|---|
| **授業の運営方法** | (1)授業の形式 | 「演習等形式」 |
| | (2)複数担当の場合の方式 | |

| | | |
|---|---|---|
| | (3)アクティブ・ラーニング | |
| **地域志向科目** | 該当しない | |
| **備考** | このシラバスは「日本人・一般クラス」用です。「日本人・導入クラス」および「外国人留学生クラス」の授業はこれとは内容が異なります。 | |

| **○単位を修得するために達成すべき到達目標** | |
|---|---|
| **【関心・意欲・態度】** | ふだんの生活の中で何気なく使っている日本語にたいして意識を高め、日本語として自然な表現に関心をもち、一般社会人としての十分なコミュニケーションが行えること。 |
| **【知識・理解】** | 日常の言語的コミュニケーションに必要な、日本語の基礎的な理解力と文章表現力とを有すること。 |
| **【技能・表現・コミュニケーション】** | 日常の言語的コミュニケーションを十分に行うために必要な日本語の運用能力を備え、相手にわかりやすく説明できること。 |
| **【思考・判断・創造】** | 日常の言語活動において的確な言葉を選択する能力や、適切な言葉によって深く掘り下げて考える能力が身についていること。 |

| **○成績評価基準(合計100点)** | | | 合計欄 | 100点 |
|---|---|---|---|---|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | **期末試験・中間確認等(テスト)** | **レポート・作品等(提出物)** | **発表・その他(無形成果)** | |
| **【関心・意欲・態度】**<br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | | **45点** | |
| **【知識・理解】**<br>※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。 | **27点** | **28点** | | |
| **【技能・表現・コミュニケーション】**<br>※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | | | |
| **【思考・判断・創造】**<br>※「考え抜く力」を含む。 | | | | |

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

| **○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安** | |
|---|---|
| **成績評価方法** | **評価の実施方法と達成水準の目安** |
| **レポート・作品等(提出物)** | 教科書の第1課から第28課までにつき、小テスト提出が14回あります。小テスト提出1回あたり、最高2点を与えます。(出来具合によって1点や0点のこともあります) |
| **発表・その他(無形成果)** | 授業への出席1回あたり3点を与えます。遅刻・早退の場合はその半分です。 |